

E コマース論 科目コード M3133、 授業コード 43633、 学年 3、 学期 2015 年度 後期、 単位数 2  
電子商取引論 科目コード I3143、 授業コード 43638、 学年 3、 学期 2015 年度 後期、 単位数 2  
曜日・時限 木曜 3 限、 担当者 藤井保之

## 授業概要

本講義では、近年急速に普及しビジネスにとって欠くことのできないツールになっている E コマース（電子商取引）について、その歴史と最新動向を概観するとともにそれを支える技術ならびに法・制度など社会基盤について詳述する。また IT と経営情報システムの進歩のなかで E コマースがどのように誕生し発展してきたか解説し、ビジネスと企業経営（マネジメント）への理解を深める。さらに E コマースの進歩がたんに企業経営にとどまらず産業構造や社会生活にまで与えつつあるインパクトについて考察し、その可能性と将来の姿を探る。

## 到達目標

1. E コマース、経営情報システム、企業経営、産業動向等にかんする記事や文献を自力で理解できる。
2. 実務経験のない学生諸君が就職活動や情報処理技術者関連の資格取得に有用なビジネスおよび企業経営や企業実務にかんする基礎知識を得られる。

## 授業計画

1. この講義の進め方  
この講義の目的、学習法および評価について説明する。開講にあたり E コマースとはなにかを定義するとともにそのひろがり理解し、本講義において取り組む課題を設定する。
2. 通貨・取引・決済と金融機関の役割  
通貨と経済行為としての取引と決済について学び、金融機関の果たす役割を理解する。
3. E コマースの起源と発展  
経営情報システムの発展過程を概観し、E コマースの先駆的な例である EDI について学ぶ。
4. E コマースの全体像とビジネスモデル  
現代の E コマースの全体像とさまざまなビジネスモデル（実施例）について学ぶ。
5. E コマースと流通・金融・製造業  
E コマースがこれら業種の経営に与えたインパクトを考察する。とくに POS システム、SCM について詳述する。
6. E コマースと経営・ビジネスインテリジェンス  
E コマースが経営情報システムに与えたインパクトの例として CRM について詳述する。さらにビジネスインテリジェンスの概念およびビッグ・データの取り扱いについて理解を深める。
7. E コマースを支える技術—インターネット・セキュリティと暗号の起源  
インターネットの原理、機能とその問題点ならびにセキュリティについて学ぶ。暗号の起源と概要を理解する。
8. E コマースを支える技術—暗号・電子認証とセキュリティ・プロトコル  
インターネット上での暗号、電子認証とセキュリティ・プロトコルの原理と E コマースへの応用について学ぶ。とくにセキュリティ・プロトコルの代表例としての SSL と、社会基盤としての PKI のしくみについて詳述する。
9. E コマースを支える技術—電子マネー  
電子マネーとはなにか、その原理、歴史と実施例について学ぶ。
10. E コマースを支える法・制度的基盤  
E コマースにおける法的問題点とそれらに対応するさまざまな法・制度について学ぶ。それらが IT とビジネスモデルの進歩にもとづくグローバルな背景をもつものであることを理解する。
11. ビジネスモデルと知的財産権  
知的財産権の基礎ならびにビジネスモデル特許の歴史と現状について学ぶ。ビジネスモデル特許の起源が E コマースの発展と密接に関連していることを理解する。
12. マーケティング入門  
マーケティングの起源、基本的概念とその変遷について理解を深める。
13. インターネットとマーケティング  
インターネットと E コマースがマーケティングに与えたインパクトを事例について学ぶ。
14. E コマース時代のマーケティング  
E コマース時代のマーケティングの最新動向を事例について学ぶ。
15. 最近の情報処理と E コマースの動向～閉講にあたって  
IT の発展段階史観の例を検討し、それをもとにクラウドコンピューティングなど最近の情報処理技術と関連ビジネスの動向を概観し、期待される IT 人材像を提示する。期末試験情報。本講についての学生諸君のアンケート。

## 準備学習・時間外学習

教材は遅くとも講義日の前々日までには講師の HP にアップするので講義の都度マルチページで印刷し持参するとよい。それに講義での情報をノートすることを奨める。綴り込めば閉講時には E コマース論の標準テキストができあがるであろう。教材は全部で約 550 ページ以上と分量が多いため試験直前にまとめたの閲覧や印刷はまず困難である。講義の都度の閲覧・理解を薦める。

## 成績評価の方法

課題レポート 40%、期末試験 60%の割合で、本講義の到達目標に達しているかの観点から評価する。開講数の 2/3 以上の出席がない学生は成績評価の対象としない。課題レポートを提出しない学生、期末試験を受けない学生はいずれも単位を取得できない。これらの場合評点は「欠」となり再試験の対象にもならないので注意のこと。また講義欠席の場合 1 回につき当該学生の評価点（満点 100）から 2 点を減ずる。毎回出席管理システムで確認する。出席カードを随時抜き打ちで併用する。不一致は不正出席登録とみなし当該年度の単位取得は認めない。大学規則に定められたやむを得ない事情による欠席は、学生教務課で欠席届が受理された場合公欠として考慮する。したがってその他の事由による欠席は特別な配慮は一切できないので、他の回で挽回するなど余裕をもって出席すること。これらの取り扱いは再履修者についてもすべて同様とする。

## テキスト

指定しない。講師の教材スライドにより進める。教材は講師の HP からダウンロードできる。ファイルオープンにはパスワードが必要である。

## 参考図書

参考書は講義のなかで都度紹介する。

## 他科目との関連・履修条件等

特別な予備知識は必要ない。情報システム学科では数少ないビジネスおよびマネジメント寄りの分野なので当学科のメイン・ストリームの諸科目を実務的観点から見つめなおすのに役立つであろう。興味を持つ学生の受講を歓迎する。

## 受講上の注意

初回の講義では受講に当たっての重要事項を伝達するので必ず出席すること。講師の HP の URL、教材ファイルを開くためのパスワードもここで伝える。講義中の質問、講師へのメールでの質問は歓迎する。

## 科目 URL

<http://yasfujii.la.coocan.jp/>

講義資料ファイルのオープンのためのパスワード： malaga

## キーワード

E コマース、EC、電子商取引、E ビジネス、ネット・ビジネス、電子決済、経営情報システム、企業情報システム、電子マネー、電子認証、電子署名、PKI、セキュリティ・プロトコル、ビジネスモデル特許、インターネット・マーケティング

01 版 2015.03.04

02 版 2015.04.20

03 版 2015.08.12